

羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために

COMPASS

第100号 2014.5.31(土) 発行

関西外国語大学
教職教育センター

SCET+

羅針盤100号記念特集号

「羅針盤」100号に寄せて

関西外国語大学 理事長 谷本 榮子

教職英語教育センターが開設されたのは、平成15(2003)年9月1日のことでした。文部科学省が「英語が使える日本人」の育成をめざして行動計画を打ち出し、日本社会が英語教育の改善に本腰を入れ始めたころと記憶しています。「羅針盤」の創刊は約1年後の平成16(2004)年12月。以来毎号、教職採用が決まった4年生や教壇に立っている若い先輩たちが綴った体験談やアドバイスが載っていて、彼らの努力や創意工夫に感心したり、感動したり、楽しく読ませていただいています。あっという間の100号でした。教職課程を履修している皆さんは「次の号が待ちきれない」という思いで愛読されているのだと推察します。

平成23(2011)年12月の中央教育審議会・教職課程実地視察では8人の視察団が本学を訪れ、教職課程の授業を熱心に見学され、教職員の話にもじっくりと耳を傾けていただきました。その日の講評でお褒めの言葉をいただいたばかりか、同年度の実地視察報告では、全国で行われた45大学のうち5校だけがピックアップされる「特色を活かした取り組み」に本学が選ばれたのです。「全学的組織である教職英語教育センターが、学生はもとより卒業生に対しても手厚く履修指導及び就職サポートを行っている」と、センターの活動が高く評価されました。

折しも、この年から全国の小学校で、5、6年生を対象とした「外国語活動」という英語の授業が始まりました。小学校での「外国語活動」は年を重ねて、様々な課題が見えてきました。先進的な取り組みをしている全国約3000の小学校を対象とした文部科学省のアンケート調査(2013年夏)によると、課題(複数回答)のトップは「教える側の指導力」(66%)でした。「小学校と中学校の連携」という回答も38%。本学では平成25(2013)年4月に「英語が使える小学校教員」養成をめざした「小学校教員コース」を開設しました、これを機に改称した「教職教育センター」への期待は一層高まっています。

COMPASS(羅針盤)には「成し遂げる」という意味もあります。教職教育センターの教職員の方々や先輩たちのアドバイスを満載した「羅針盤」に導かれ、教壇をめざす皆さんの夢が見事に達成されることを願ってやみません。

「羅針盤」第 100 号の記念号に寄せて

関西外国語大学 学長 谷本 義高

教職を旨とする在学学生、卒業生の道標となる教職情報誌「羅針盤 (COMPASS)」がこの度、第 100 号を迎えられ、関係各位の誌面作成に心から感謝申し上げます。英語科教員志望の人たちおよび、指導されてきた先生方の熱意が凝縮された毎号を拝読するたびに、教員採用試験合格の喜びの裏には、涙の日々があったことを知り、改めてねぎらいの言葉を贈りたいと思います。

さて本学の教職教育では、中学・高校教員の養成において、理論だけでなく実践的な授業力を身に付けてもらうことに重点を置き、現場経験豊かな先生方が指導されてきました。さらに、2013 年度には、英語キャリア学科に小学校教員コースを設置。「小学校英語」においてリーダー的存在となるべく「英語が使える小学校教員」を本格養成しています。その結果として、平成 16 (2004) 年の「羅針盤」創刊以来、100 号達成までの 10 年間で、本学は中学校英語教員の採用数では全国トップレベルに位置し、その数字は毎年、大きく塗り替えられています。

一方で文部科学省は、グローバル化を見据えた教育改革案を次々に打ち出しています。小学校英語の開始時期を現行の 5 年生から 3 年生に前倒し、中学校の英語授業を原則英語で行うなどの方針を示しています。さらに大阪府教委は、平成 26 (2017) 年春の高校入試から一部の府立高校の英語試験で、設問に英語表記の導入を検討しています。いずれも、早期の英語力強化が狙いですが、動きは急です。私たちは、こうした小・中・高校の英語教育界の次世代改革に乗り遅れることはできないのです。これからの国際社会に打ち勝つために「使える英語」の修得が求められ、「使える英語」を教えることができる教員の育成が、関西外大には求められているのです。

皆さん、これからも「羅針盤」を大いに活用して、語学だけでなく一般教養修得にも力を注いでください。語学が堪能なだけが真の国際人ではありません。外国語で日本の文化・歴史が紹介できるこそ真の国際人であり、真の国際人を育てられる教員と言えるのです。皆さんが希望の空へ大きく羽ばたく日を待っています。

『羅針盤』の 100 号に際してのお礼

前 教職英語教育センター所長 名誉教授 網倉 尚武

教職英語教育センターは平成 15 年 9 月に創設されました。そして、教職英語教育センターの取り組みを皆さんに知っていただくために、平成 16 年 12 月に『羅針盤』の第 1 号が発行されました。それ以来、今回で 100 号が発行されました。岡澤先生のこれまでの粘り強いご尽力に心からお礼を申し上げます。同時に、『羅針盤』の発行に支援をいただいた教職教育センターの職員の皆さんを初め関わっていただいた皆さんに心からお礼を申し上げます。

この『羅針盤』は毎回先輩の色々な苦労談が掲載され、教員を旨とする学生が教員としての苦しみや

喜びなどを知り鼓舞されことと思います。『羅針盤』は教職教育センターと現役の学生や卒業生を結び、学外の方々に教職教育センターの取り組みを紹介する役割を果たしてくれました。これから200号を目ざして、更に編集に工夫を加えられ内容を更に充実していただきたいと思います。そして、関西外国語大学の教職教育センターが、全国の現役の先生方や教職を目ざす若者にとっての学びの場となることを切に祈っています。

「羅針盤」100号によせて

英語キャリア学部 教授 角野 茂樹(教職教育センター所長)

羅針盤は教職をめざす学生の道標です。また、教職をめざす学生たちを指導する本学教職員の歩んできた足跡です。そして、新しく指導・支援に携わる教職員の「教科書」にもなっています。

私は、平成24年に本学に入職し、その年の5月から「夜スペシャル」に関わり、先輩諸氏の熱意に打たれ、また学生の意欲的な「学び」と「教職にかける情熱」に圧倒されるとともに、教師としての使命感を喚起されたことを思い出します。また学研キャンパス(穂谷)で行われる合宿は、先輩教員から現役学生が学び、社会人に必要な自律ある態度を育成する場であり、また本学教員による指導メニューや資料も充実しており、学生にとっては大きく自分の能力を開発する機会となっています。

昨年から、先輩諸氏の支援を受けながら、教職教育センターの一員として教職をめざす学生への指導・支援に努めてきました。ICC6号館が教職をめざす学生たちの拠点となり、学生同志が情報交換し合い、自主的に切磋琢磨し合い、長い年月をかけて「教職」という自己実現を追い求めています。今年の4月には、35名の現役合格者をはじめ80名を超える新規採用教員が全国の小・中・高等学校に赴任しました。一人ひとりの学生の涙と汗の結晶が自己実現につながったことを高く評価しています。

今年も2月から学生たちの「自主ゼミ」が始まり、5月には留学から帰った学生が合流し、ICCのあらゆる教室で学び合う姿があります。これは「羅針盤」とともに先輩から引き継いだ伝統でもあります。そして今、「明日から教育実習へ行きます。」と挨拶に来て、郷里へ帰っていく学生たちの後ろ姿を見送っています。彼らの「奮闘」に応えられるよう、これから始まる長丁場の教員採用選考をしっかり支援していかなければならないと肝に銘じています。

おわりになりますが、これまで指導いただいた先生方や事務職の皆さんの献身的なご努力、理事長、学長をはじめとした大学のご支援に厚くお礼申し上げます。

「羅針盤」100号によせて

国際言語学部 元教授 二宮 金吾

現在、多くの本学卒業生が、英語科の教員として、全国の学校で活躍している。特にこの10年ほどの間に、教員採用試験の合格者数が大きく伸びて嬉しい限りである。この合格者の増加に大きく貢献した一つに本誌「羅針盤」があった。

私は、平成10年から13年間、本学でお世話になった。本学は、大学発足当初より教員養成の[教職課程]が設置され、卒業生で教員としている人を何人か知っていた。ただ、当時は教職をめざす学生の個人的努力と、それに対する教職員の支援が中心で、組織的支援体制は確立していなかった。

平成 16 年頃から始まる「団塊の世代」の教員の大量退職と、それに伴う教員の大量採用が予見され、私たち教職員の要望も受け止めて頂いた当時の谷本貞人理事長・総長のご英断で本格的支援組織である「教職英語教育センター(当時)」が平成 15 年に設立された。

平成 16 年以降、多くの新しい先生方が着任され、授業の充実や特別講習などの実施と、それに応える学生たちの真摯な努力が今日に繋がっている。

この学生たちのモチベーションを高める役割を担ったのが、平成 16 年から始めた「合宿」と「羅針盤」の発行であった。両者に共通するのは、教員採用試験をクリアして、学校現場で頑張っている先輩に、直接学ぶということであった。採用試験に向けて取り組んだ具体的な経験やその時点の勤務校での活動の内容などを、夜を徹して聴き、話し合った「合宿」と、「羅針盤」に登場する先輩たちの寄稿文は、後輩の学生たちに大きな勇気を与えた。

退職後の現在も、教員として頑張っている卒業生から時々報告や相談などを受けている。私にとっても大変嬉しくもあり、有難いことである。

教員をみざす学生たちに大きく貢献してきた「羅針盤」が今回 100 号を迎えたが、当初から約 10 年間、この「羅針盤」の編集を続けて頂いた岡澤先生に心から感謝を申し上げたいと思います。

「羅針盤」第 100 号発行に寄せて

英語キャリア学部 教授 小寺 正一(小学校教員養成課程コース長)

教職教育センターの情報誌が 100 号とのこと。まず、文字通り教職をみざす学生のための「羅針盤」としての役割を果たしてきたことに対して編集にかかわっておられる先生方に敬意を表します。

関西外国語大学での教員採用の実績が近年向上しているのは教職教育センター(旧 教職英語教育センター)の関係者の諸先生方、事務方の皆さんの尽力の「たまもの」だと思いますが、とくに情報誌「羅針盤」が果たしている役割が大きかったと想像しています。

目標に向かって努力することは重要ですが、一人での努力はやはり限界があるでしょう。迷いも生じます。仲間がいてお互いが励まし合い、時にはライバルとして競い合っこそやる気を維持できると思います。また、仲間の手前、頑張らざるをえないこともあります。そのような仲間意識をみんなが持ち続けるために「羅針盤」の果たした役割は大きいと思います。教職をみざす学生諸君が教員採用に必要な情報を「羅針盤」で得ることも多かつたであろうと考えています。

私は、教職は社会的に重要な仕事だと思って教員養成の仕事をしてきました。もちろんどの職業もそれぞれ重要ですが、教職は児童・生徒を教育することを通じて未来の社会をつくる仕事だと考えています。その点からいえば、日本社会のグローバル化が言われる今日は、中学校、高等学校の英語教員や英語に強い小学校教員の養成はますます重要になると考えます。つまり、これまで以上のものが関西外大の教員養成に求められるわけですから教職ジャーナル「羅針盤」が情報提供と同士の交流の場としてさらにレベルアップしていくことを祈念しています。また、教員をみざす学生諸君の教育に関する理論面の素養のレベルアップにつながるような情報提供も紙面で展開されることを願っています。

英語キャリア学部(教務部長) 教授(教育実習委員) 松宮 新吾

Taking Control of Yourself

Shingo Matsumiya

Professor, Dean of Academic Affairs

College of International Professional Development

There are times when you need to react to events such as answering phone calls and emails, fighting fires and crises or the loss of your beloved. This is called a REACTIVE style in time management terms. On the other hand, there are times when you need to decide what is important and how you will spend your time rather than responding to every event befalling you. Here, you are very focused on your target or goal. You are quite clear about your purpose and not easily distracted. This is called a PROACTIVE style.

It is not a simple question like ‘Are you reactive or proactive?’ You have to play both. However, people who manage their time well tend to be at the proactive end of the continuum.

For your information, here are some recommended strategies for becoming more proactive with the tip of your finger.

1. When you first sit down at your desk, just leave your computer, mobile phone, or tablet turned off.
2. Spend the first three minutes of your day or study session planning.
3. Ask yourself ‘What is the most important thing I need to do today?’
4. Don’t start responding to emails first thing in the morning. Answer them later in the day after you’ve done some work of the day or you’ll just get bogged down.
5. Again, shut down your laptop, mobile phone, or tablet and go back to the 2nd strategy.

Hope this helps.

「100号を祝して」

外国語学部 教授(教育実習委員) 並松 善秋

岡澤教授を編集主幹として、10年余のたゆまぬ着実な歩みが「羅針盤」誌の記念すべき100号として今回結実しました。この「羅針盤」に導かれて、自らの努力と同志との協働で全国の教員採用試験に合格して実際に生徒たちを目の前に多彩な英語指導と教育実践を行っていた関西外大OB・OGと共に、この記念すべき機会を心から喜びたいと思います。

私たち教員も、学生たちの真摯な教員志望の気持ちと、採用試験に向けて、あるいはその向うを展

望しての資質・識見の向上への努力に接して、逆に幾度となく励まされてきました。第1号か順を追って読み返しますと今日まで、網倉尚武先生をリーダーとする教職英語教育センター（現、教職教育センター）に関わる人々の「火の玉」のごときエネルギーの結集に圧倒される思いを持ちます。汗と涙と不安と自負と挫折と笑顔が交錯する10年余であったように感じます。

「羅針盤」の第1号から第100号までが立派な表紙で合冊され、ICCや図書館に配置され、これからも毎年続く教職志望者への先輩たちからの「道しるべ」として活用されることを私は願います。これはどこの大学にも追随を許さないものであるという確信があります。同時に第101号からまた新たな関西外大教職希望者の足跡が刻まれ始め、10年後も20年後も「羅針盤」が学生たちの羅針盤であり続けて欲しいと願います。「継続」はまさに「力」そのものです。「羅針盤」の末永い継続こそが、関西外大の教職教育センターにおける「協働の証」であり宝であり大黒柱となるものだと信じています。

学生の皆さんには、直接目には触れないところで、惜しめない力を添えていただいている理事長や学長をはじめ、大学職員の方々への感謝の気持ちももって欲しいのです。縁の下の人々の援助や尽力に対して、想像力を広げてください。自分の「力」と「努力」だけで現在の自分があると自負する「教師」は、いずれどこかの段階で「行き詰る」でしょう。

「羅針盤 100号発行を祝して」

英語キャリア学部 教授(教育実習委員) 渡邊 一郎

「羅針盤」100号が発行されるという。よくぞ、ここまで続けて来て頂けたとの思いが強い。この間、発行に係わってこられた方々のご努力たるや、並大抵ではなかったことは想像に難くない。そのご努力に対し、深甚の敬意を表したいと思う。そして、今後更なる充実を心から願い、出来ることならば自分もその一助になればと思う。

私は、春・冬に行われる恒例の教員採用試験対策セミナー合宿に2年前から参加するようになった。そこには現在教職にある多くの先輩たちが駆けつけ、教職をみざす後輩たちの為にボランティアで協力してくれている。私たち教職員があれこれ言うよりも彼等が先輩の立場で一言してくれる方がはるかに有効性が高い。

お馴染みになっているある先輩は、挨拶の時こう言う。「皆さん、『ありがとう』の反対は何だと思いますか。」答えは伏せておくことにするが、参加者は誰しも「はて何だろう。」と考え込む。

枕草子の72段は「ありがたきもの」で始まる。めったにないもの。舅にほめられる婿、また姑に大切にされるお嫁さん。無駄毛がよく抜ける銀の毛抜き。と続く。

言うまでもなく、「ありがたきもの」は「在り難きもの」であり、従って「めったにないもの」ということになる。

「ありえない」というギャグが流行ったこともあるが、「ありがとう」という御礼の言葉が、「在り難いこと」を与えてもらったことに感謝する言葉だということ、あの先輩の問いかけで認識することになった。

この合宿では、私たち教職員も「目からウロコ」の体験をすることが多々ある。ここにも、「無作為の作為」が感じられ、これらに係わった方々の知恵に頭が下がる思いである。

「記念号に寄せて」

外国語学部 准教授(教育実習委員) 塩地 弘和

教員生活 36 年目になり、定年まで 4 年となりました。今まで 1 万 5 千人以上の学生を担当し、現在も教員になった卒業生やクラブの学生との交流が続いています。

毎年スポーツ健康科学を履修する教職課程の学生が多くいますが、今年は例年以上に授業参加度が高く、意識を高く持って自分に磨きをかけているように見えます。教職担当の先生方が期待しているだけの学習意欲が強く伝わってきます。基本ルールの順守や、準備、片付け等においても積極的に行ってくれますので非常に授業展開がしやすくなっています。

バレーボールやバスケットでの対戦にしてもグループを素早く形成し、時間をフルに使ってチームを盛り上げています。バドミントンなどの対戦においても、チャレンジ精神にあふれていて、勝敗に関わらず強い相手に向かう気持ちが強く出ています。

特に今年は夏から留学をする人が多く、話を聞いていても多くの準備に余念がありません。こちらにも希望あふれる学生へのエールを自然と送りたくなります。様々なハードルをクリアする努力をしてきたことが伺われます。感心するのは、クラブ活動やサークル活動にも積極的に参加して、文武両道を確立させている人が多くいることです。自分の事だけで精一杯でほかの人の世話や手助けをする余裕がない人が多い中で、勉学以外で自分を高める努力をしている姿は、教える側にも強く刺激を与えてくれます。

教育実習委員として少しばかりの学生支援に携わり 8 年ほどになりますが、教職教育センター設立から多くの教職員の方が、学生支援のために多くの改革を行い、現在の体制になっています。当たり前のようなシステムかもしれませんが、プロパーの先生方が、より資質の高い教員を送り出すために幅広く衆知を集め、即実行に移されたことで周りの多くが意気を感じて裏方としてサポートさせてもらったと自負しています。教職履修学生の皆さんは、今後もこのシステムを大いに利用して、教員としての資質向上につなげてもらい、採用試験に合格して、教えることは学ぶことであると現場教育の中で実感していただきたいと強く思います。

Network is your treasure!

What a wonderful Kansai Gaidai English Teachers'

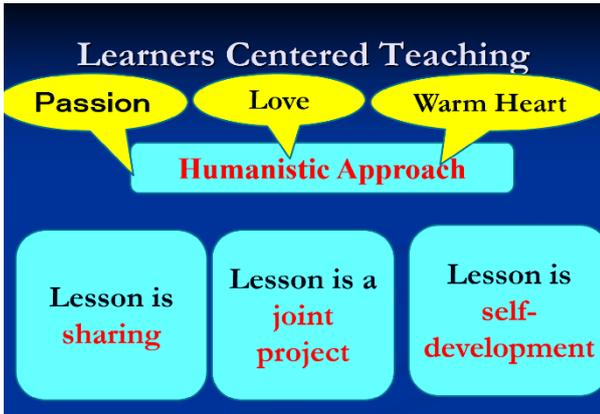
Network in the secondary!

英語国際学部 教授 西村 孝彦

教職教育センターの羅針盤も 100 号となり、関西外国語大学卒業生が日本全国で中学校、高等学校の英語教員として、また各地の教育委員会で活躍されています。ひとつの高等学校で英語教員 7 人中 4 人関西外国語大学卒、ひとつの中学校で英語教員 4 人中 3 人関西外国語大学卒という学校もあり、まさに各学校で英語教育、国際交流等すばらしいリーダーシップを発揮しています。 *We have a wonderful English teachers' network!*

先日も学研都市キャンパスにおいて「ようこそ先輩」を開催し、「サイスペ」卒業生で現役合格した先輩の講演に国際言語学部・英語国際学部の教職をめざす学生が約 70 人集まり、先輩へのあこがれ

を募らせ、“*I want to be an English Teacher.*”という夢を確認、夢の実現に向けて、*Take action*し続けることの重要性を確認しました。



教員（教諭）なるのに今が絶対チャンスです。Now, *get the chance!* みなさん現役合格をめざしましょう。このすばらしい関西外国語大学英語教員 *Network* の仲間に入り、お互いに *Peer Support* で情報を共有し、日本の英語教育を変えていく *Willpower* を共有しましょう。常に *Humanistic Approach* で *Passion, Love, Warm Heart* をもって生徒のために何ができるか (*Learners Centered Teaching*) が大切です。“*To teach English*”ですが、“*To teach students English*”という認識が大切です。さらに、“*Lesson should be*

sharing, Lesson should be a joint project and Lesson should be self-development”という認識をもって参加型の授業を心掛け、*To get rid of Grammar Translation Method* と *Output* 重視の英語教育をめざしましょう。

Network is your treasure! Go for it!

「羅針盤」 100号記念に添えて」

短期大学部 教授(教育実習委員) 山元 行博

「羅針盤」、第100号、記念の発行おめでとうございます。

“教員採用を目ざすなら関西外大へ”

決してお世辞でなく、枚方に住んで40年の私が言うのだから間違いありません。

関西外大の過去から現在まで見させていただいて、そして、その未来にまで関われることに感謝しています。

豊中市の教育委員会に何度も足を運ばれていた岡澤先生のフットワークに押されて、豊中市の中学校にも関西外大と連携しながら、「英語特区」の中学校を学園方式で取り組みました。

今、近くの生協へ行っても、「どこにお勤めですか？」と聞かれて、「関西外大にお世話になっています。」と答えると、「学校の先生になりやすいんですね。」と言われます。思わず嬉しくなっていますが、それに甘えることなく、今後も学生をサポートしていきたいと思っています。

「関西外大生のプライド！」

短期大学部 教授 明石 一朗

「この合宿を通して『仲間』・『努力』、そして『最後まで諦めない』ことをしっかり学んでほしい。」
— 角野茂樹 教職教育センター所長（教授）の激励の言葉がホール全体に響いた。

5月17日（土）～18日（日）、学研都市キャンパス穂谷セミナーハウスは教職を志す67名の学生たちの熱気で溢れかえった。11年目を迎える「教員採用対策春季合宿」は、これまで多くの教員合格者を送り出してきた「登竜門」である。

初めて参加した私は、学生たちの瞳の輝きと共に、卒業生で現役教員（サポーター）のみなさんや本学教授陣の並々ならない情熱と丁寧できめ細やかな支援・指導の姿に感激し、この場に参加した一員として、何か誇らしい気持ちで胸がいっぱいになった。

二日間で特に印象に残った言葉を記したい。

- ・面接に臨む時、この仕事で生きていくという「覚悟」を示すことが大切。そのためには、事前あらゆる情報をインプットして準備することだ。（市川）
- ・試験官は「この人と一緒に働けるかどうか」を見ている。その人とは「自分のことを後回しにしてでも他者のために仕事ができる人」だ。（遠藤）
- ・「ありがとう」の反対は何か。それは「当たり前」である。何事も「当たり前」と思っていると感謝の言葉や行動は生まれにくい。（藤原）
- ・子どもとの信頼関係を築かないと指導は入らない。信頼は、子どもの話をじっくり聞くことからだ。（高田）
- ・教員に大切なことはコミュニケーション力である。そのために、挨拶+ひと言をつけるようにしている。（青柳）
- ・授業で子どもを引き付ける力が必要だ。教科指導は生徒指導でもある。（井坂）
- ・何と言っても学生は暇と思う。現場の教師は朝から晩まで子どものことで頭がいっぱい。英語の専門性を高めて生徒が認める教師になってほしい。そして、感謝の気持ちを態度で表せる人になってほしい。（榮）

合宿は、「来年度以降、必ず学校現場で働く仲間になりましょう」という強い決意と「ありがとうございました」の感謝の言葉で終了した。学生たちの笑顔に「仲間とつながり、支えあい、努力する」という関西外大生の確かなプライドと大学人として職責の重たさを自覚する二日間であった。

「時間は君にとってもあつという間に過ぎてしまう」

外国語学部 招聘講師 ジャシュ・ディ・アンドレ

歳を取れば取るほど時間がたつのは速くなるような気がする。昔の記憶も薄くなっていく。人間だから、成功や楽しみより苦勞や絶望を先に忘れがちである。けれども、よく考えてみると21歳の頃は失恋と不安の塊だった。あの頃にはまだ若かったので時間が経つのもかなり遅く感じた。卒業までの苦勞は永遠に続くと思っていた。それから20年間があつという間に過ぎた。毎年新入生に出会って、卒業生を見送ることの繰り返しである。ただ8月の2次試験対策の期間中には自分の学生時代の記憶がよみがえる。受験生は連続する真夏日の毎日をかけて討論、面接、模擬授業の練習に励む。老若関係なく時間の流れが鈍くなり、先生と学生共に大学生を新人教諭に変えていく生みの苦しみをじっくり味わうのだ。でも過去の歴代卒業生も先輩として参加している所を見ると、皆がこの夏さえ越えれば大丈夫だ。時間は君にとってもあつという間に過ぎてしまう。でも本当に必死に働いたり、恋したり、悲しんだり、生きたりするとたまには時間を止めることができると私は思うのだ。勉強、人生を頑張ってください。

《卒業生からのメッセージ》

「先生、なんで勉強せなあかんのですか？」

愛知県知立市立竜北中学校 教諭 内田 綾 (外国語学部平成 17 年 3 月卒業)

これに、生徒に語るあなたなりの考えをもって、教師になってほしい。

第一に、あなたには生徒に誇れる英語力があるだろうか。

「あまり英会話が得意ではないのですが、授業は大丈夫でしょうか。」

教育実習や研修で来る大学生から、何度言われたかわからない。正直、日常英会話ができないなら英語教育の現場に来るべきではないと私は思う。ALT とともに会話もできない英語教師は現場にもたくさんいる。それは事実。けれど、今から現場に入るあなたには、「この先生みたいに英語を使える人になりたい！」と生徒達に憧れられる人材であってほしい。

その上で、「なぜ勉強するのか」の答えである。私は大阪で教師になってから、愛知に勤務する主人に出会い、結婚した。子どもの頃からの夢、教師を辞めたくなかった。でも、大阪から愛知に転勤はない。もう一度受験生になるしかない。けれど、当時荒れた 2 年生の担任をしていた私に、採用試験の勉強をする時間はほぼなかった。愛知の採用試験でそんな私を合格へと導いてくれたのは、学生時代に一生懸命勉強した私自身だったと思う。外大から留学させてもらい、現地の大学の授業についていくため、死に物狂いで勉強した私に感謝したい。「夢は、一度叶えたら終わりじゃない。人生にはどんな転機が訪れるか分からない。視力が悪くてパイロットになれない、身長が低くてモデルになれない、なら諦めがつくかも知れない。でも、愛する人がいるのに、自分の学力が足りなくて夢か彼を諦めることになるなんて、未来の自分に申し訳ない。だから、学生時代は勉強するの。」これが、私の答えである。「えー、でもさ…」と、反発してきた生徒は、今のところいない。

あなたが、素敵な教師になって現場に来てくれることを心から願っています。

「自分磨きを！」

大阪府豊中市立北丘小学校 教諭 小竹 昭 (外国語学部平成 19 年 3 月卒業)

先生になってから、子どもたちに「どうして勉強するの？」と聞かれた時、あなたならどう答えますか？私は「自分を磨くためやで〜。」と答えました。それが正解かどうかはわかりませんが、外大で採用試験の勉強をした経験があったからこそ出た言葉だと思えます。

今になって思いますが、採用試験に無駄なことは一つもありません。無駄にするかしないかは自分の心構え次第です。残念ながら、(こんな先生になってから、絶対使わないやん!)と学生の頃は思っていました。しかし、本当に大事なものは勉強する内容自体ではなく、勉強を継続して行う習慣をつけることでした。その習慣は、必ず先生になってから必要になります。私の場合は小学校ですが、1日6時間分の授業を準備しなければいけません。しかも準備したものが使えるのはたった一度です。それが毎日続きます。それを楽しんで行っているのも、採用試験のおかげです。

次に、面接練習です。私は人前で話すのが苦手でした。そんな私が、面接本番の日、(よ〜し、今日が本番や!むっちゃ楽しみ!)と思えました。面接だけに限らず、多くに当てはまることだと思

ますが、自信をつけるには**練習あるのみ**です。一つの質問に何種類答えられるかサドネス形式でやったり、椅子の上に乗ってプレッシャーを増やして自己PRしたり、新しい遊びを考えるかのようにいろんな面接練習をしました。もちろん先生になってからは**毎日人前で話す**ことになります。ここでの話す練習が役にたっています。

最後に教員採用試験で手に入れた一番大きなものは、**一緒に勉強できるメンバー**です。試験勉強、面接練習はもちろん、様々な時間を共にし、**今でも集まって笑い合えるメンバー**です。

ぜひこの羅針盤を読んでいる皆さんも**一生モノのメンバー**と出会い、**自分磨き**をするつもりで採用試験に挑んでください。**先生は最高なお仕事**ですよ。

「教職をみざす関西外大生の皆さんへ」

岐阜県立中津川工業高等学校 教諭 高田 敏博(外国語学部平成19年3月卒業)

皆さんこんにちは。岐阜県立中津川工業高等学校の高田敏博です。現在教師になって8年目になりました。思い返せば9年前、網倉先生をはじめ、岡澤先生、松宮先生、その他大勢の先生方に励まされながら教職の勉強に熱を入れていました。昨年11月に中宮キャンパスで行われた教職ガイダンスのパネラーとして参加させていただいた際、教師をみざす学生さんのキラキラした目が非常に印象的で、自分も以前はそのような目をしていたに違いなく、その目の輝きをいつまでも忘れてはいけなと感じさせられました。また、関西外国語大学の卒業生として、これから教職をみざすみなさんを心より応援しています。

さて、教師という職に就いて思ったことを少しだけ書きたいと思います。①理想は持ち続けること。誰も自分の理想の教育があると思いますが、赴任した学校の特色や、様々な先輩の先生方がいらっしゃるの、自分の理想ばかり追い求めているとうまくいきません。ただ、理想に近くなるように頑張ることはできます。②授業が勝負！これは昨年のガイダンスでも言いましたが、教師は何よりも授業で勝負しなければいけません。授業をしっかりと聞く生徒は、その先生の話もしっかり聞くようになります。またそのために授業準備が必要不可欠になります。③カウンセリングマインド。生徒の話をよく聞き、理解に努めることが信頼される先生への第一歩です。生徒指導だと言って、頭ごなしに生徒を叱りつけても生徒は聞く耳を持ちません。生徒指導をうまく行う上で大切なのが『カウンセリングマインド』です。まずは話を聞いてあげることが大事です。

みなさんの健闘を岐阜の地より見守り、応援させていただきます。

「羅針盤」100号発行に寄せて

大阪府堺市立大浜中学校 教諭 根木 彩花(外国語学部平成22年3月卒業)

関西外大を卒業して、あっという間に5年が経ち、私は今年度初めての転勤を迎えました。新しい学校での毎日は新鮮なことばかりで、戸惑うこともたくさんあり、新任当時の右も左もわからなかった頃とよく似ています。関西外大で学んだたくさんのお話を、これから実際に学校現場で“先生”として実践していくことへの期待と不安でいっぱいだった5年前。あの頃の気持ちはいつまでも大切にしていきたいと、改めて感じます。

『羅針盤』の記念すべき100号発行おめでとうございます。教職を目指す学生のために、その時期その時期に必要な情報や話題を提供してくれた『羅針盤』には、私も在学中大変お世話になりました。それも全て、教職教育センターの先生方、職員の皆様のご尽力あってこそそのものだと、本当に感謝しています。そして学生の皆さんには、そんな素晴らしい先生方の支えのもとで、自分たちの夢や目標を追うことができることに、誇りと感謝の気持ちを持って頑張ってもらいたいと思います。

私は3年次に、他の大学から関西外大に編入学をしてきました。前の大学でも教職課程を履修をしていましたが、「このままで本当に教師になることができるのか？」と不安に感じたことが理由です。関西外大は、教職を目指す学生を支援する体制が非常に整っていて、とても驚きました。また教職を目指す学生の意識やモチベーションがとても高いことにも、刺激を受けました。もしこの大学に来なければ、教職の道には進めなかったかもしれないと思っています。関西外大での2年間は、それほど濃く充実した日々でした。そして卒業して5年経った今でも、関西外大卒の仲間たちからはたくさんの刺激を受け、大学を訪れるたびに気持ちを新たにすることができ、先生方には卒業してなお世話になっています。そんな大学はきっと、どこを探しても他にはないと思います。

教職を目指す学生の皆さん、何事も全力でがんばってください。皆さんの夢の実現は、皆さん自身だけでなく、関西外大の先生方や私たちOBOGの目標でもあります。皆さんと一緒に働くことができるのを楽しみにしています。

「教師って面白い！」

香川県観音寺市立大野原小学校 教諭 伊瀬 史沙(国際言語学部平成21年3月卒業)

皆さんは今、どんな教師像を思い描いていますか？正直に言うと、仕事はとても大変です。生徒指導、教材研究、保護者対応・・・実際に働き始めると、想像以上でした。ですが、私は大変さ以上に「教師って面白い！」と感じています。その最大の魅力が“子どもの反応や成長”です。

教師の言動一つで、子どもは変わります。例えば、学級で話すときにおしゃべりをしている子がいたら、どうしますか？こちらが黙って待っていれば、みんなの視線が集まり出します。手遊びをしている子がいたら？姿勢のよい子を褒めると、みんなの背筋が自然と伸びます。授業中の挙手が少ないときは？「～が分かる人、できた人」ではなく「～が言いたい人、やってみたい人」という言い方に変えるだけで、挙手が一気に増えます。間違えてしまったときのフォローも忘れず、発言しやすい環境をつくると、さらに効果的です。

また、授業の盛り上がり方や理解度は、事前準備の有無で大きく変わります。どの学級にも、学習理解や作業スピードが遅れがちな子がいます。決してやる気がないわけではありません。ただ支援が必要なだけです。そんな子をどうすれば授業に引き込むことができるか、教師の腕の見せ所です。発問・助言の工夫、補助教材の開発等、いくらでも方法はあります。苦手だったことができるようになったとき、子どもは本当によい表情をします。日々の頑張りが報われる瞬間です。

子どもにしてほしいことがあれば、まずは自分が実践してみましょ。1年間でどれだけ理想の学級・子どもに近づけることができるかは、自分次第です。一緒にたくさんのことを乗り越え、成長した子どもたちと迎える3月は感慨深いものがあります。教職を目指しているのであれば、大学生のうちにいろいろなことを経験し、自分なりの理想の教師像を明確にしておいて下さい。そして教師にな

ったとき、自分にとってかけがえのない学級・子どもたちを育ててみませんか。

「学生時代に学校現場に行く」

大阪府松原市立松原東小学校 教諭 中地 翔子(外国語学部平成22年3月卒業)

皆さんこんにちは。私は、1年間は松原市の小学校で常勤講師をし、その年に採用試験で合格を頂き翌年より現在の学校で勤務しています。今年で働いて5年目になりますが、今日はその中で1年生を担当した時のことを書かせて頂きます。

前年度まで高学年を担当していた私にとって1年生をもたせて頂いた時は毎日が驚きの連続でした。朝は、登校を渋り校門で泣き叫ぶ児童を迎え入れることから始まりました。教室でも不安な気持ちから友達とぶつかる子、授業中椅子に座ってられない子などがいて、まず教室が子どもたちにとって安心できる場所でありたいと考えました。そのために幼稚園ですのような手遊びを授業の合間にし、子どもたち同士が遊びを通してつながれるような時間を設けるなど就学前との段差を出来るだけ低くするよう努めました。1年後に「班遊びでケンカしてしまったから、次の休み時間にもう1回やり直すねん。」「先生、〇〇ちゃんのしたこと、おかしいと思うから話し合いの時間をとってほしい…」などの言葉が子どもたちから聞けた時はとても嬉しく思いましたし、1年生を担当させて頂いて教師としてすべきことは何か子どもたちから学ばせてもらいました。

今年度は持ち上がりで2年生の担任をしています。授業で前向きに学習出来る環境を整えることはもちろんですが、子どもたち同士があらゆることに友達と協力して自主的に活動できるような年にしたいと考えています。

最後に、学生の内には是非しておいたら良いと思うことを書かせて頂きます。それは、学校現場に行くことです。私も学びングやインターンシップを通して教育実習以外にも出来るだけ学校に行かせて頂き、そこで学んだ先生方の声掛けや授業展開の仕方が今でもとても役に立っています。また、大阪教志セミナーや小学校英語活動指導者の講座にも参加させて頂きました。

学校現場は、目が回りそうな日々ですが、それ以上にたくさんの子どもの笑顔が見られます！子どもの一言で元気になれます！学生の皆さん、頑張ってください！！

「外国語指導に自信を持てるようにすること」

大阪府和泉市立鶴山台北小学校 教諭 河合 翔子(外国語学部平成23年3月卒業)

在学中に取り組むべきことは、「外国語指導に自信を持てるようにすること」・「支援教育に対する学び」です。

一つ目の「外国語指導に自信を持てるようにすること」は、外大生なら皆できることでしょう。

5年生から外国語活動が始まり、学級にはその活動を楽しみにしている児童がたくさんいます。また、英語を塾で習いたいという児童も増えており、外国語活動に対する期待がうかがえます。その反面、外国語（外国語活動指導）を苦手と感じる教員が少なくないのが現状です。

私は、教員採用試験の時には、「外国語活動の即戦力になる」と志望動機に書きました。外大生は日々の大学の授業において、外国語の指導を学んでいるので、現場で即戦力になること間違いありません。

また、中学校英語教員を目ざしている方も、最近では小中連携の動きも活発化し、中学校の先生が小学校に英語を教えに来ることもよくあります。座学だけでなく、学びングサポートやグループボランティア活動などに参加し、実践を積み、自信を持てるようにしてください。

二つ目に、現場に必要なことは、「支援教育に対する学び」です。多くの学級に、ADHD・LD・自閉症傾向のある児童が数名はいます。そのような児童は、学級の中で「困り感」（何をすべきかわからない。周りが気になり、勉強に集中できない。勉強についていけない。など）をだしていることが多いです。そのため、授業を行うためには、事前に「気になる子」へのアプローチが欠かせません。担任が対象児童の支援策を考え、個別対応しておくことでその児童は学級で学びやすくなります。支援が必要な児童を早期に見つけ、支援策を考えるためには、発達障がいに対する教員の理解がなければなりません。「誰もが取り残されない教室」にするために、ぜひ支援教育の勉強をしておいてください。

これらは、長期休暇や自分のために使える時間が多い学生のうちに、挑戦してください。いつか、同じ現場で働けることを楽しみにしています。頑張ってください。

「採用試験までの道のり・得たもの」

京都市立春日丘中学校 教諭 上田紗和子(外国語学部平成23年3月卒業)

外大を卒業し、採用4年目。1、2、3年と担任として持ち上がった学年を今年の3月に卒業させ、4月からは再び1年生の担任を持っています。英語科主任・道徳教育推進教師兼主任、生徒会副チーフ…と学級担任以外にも分掌をたくさん受け持つ年になり、忙しい毎日を過ごしています。

私が現役合格体験記を載せていただいたのは、平成22年10月23日発行の第67号でした。外大教職OGとして再び寄稿できることを大変嬉しく思います。今回は、「採用試験までの道のり・得たもの」と「教師としての軸=信念」この2点についてお話をさせていただきます。

採用試験までの長い道のり…支えてくれたのは「教職の仲間との絆」。それが深まったのは、「面接練習」です。ゼミや夜スペでも面接練習を行っていましたが、それだけでは足りないと思い、週3回、図書館3階のグループ学習室で練習することを決めました。

練習では、上手く答えられず悔しい思いをしました。採用試験までとても不安だと悩みを打ち明けることもありました。どう答えていいかわからない質問はみんなで協力して考えました。そうやって、励まし合い、悩みを共有しながら「みんなで合格するぞ!」という絆が生まれ、深まっていきました。ですから、教師になった今でも教職ゼミのメンバーとは互いの近況報告をしながら交流を続けています。「みんな頑張っているから、私も負けずに頑張る!」採用試験のときと同じように、私を支え続けてくれているのです。

採用試験の個人面接・自己PRの最後にこう締めくくりました。「京都市の子どもたちの笑顔キラキラと輝かせます!」これが私の教師としての「軸=信念」です。授業で、クラスで、部活動で、自分がどう動けば生徒の笑顔は輝くか…いつも考えて接しています。上手くいかないことも勿論あります。けれども、生徒の笑顔で何度も救われたことがありました。生徒の笑顔は、私の元気の源であり

喜びなのです。

現役生の皆さんには「こんな教師になりたい！」という思いはありますか？採用試験に臨む前にもう一度、確認してみてください。その「軸＝信念」が自分自身を支えてくれます。迷ったとき、どう進むべきかを示してくれます。自信を持って頑張ってください。

最後になりましたが、外大教職の強みは何と言っても「つながり」！！先生方・先輩方に導かれ、同期と刺激しあい、後輩たちに背中を見せる…それが伝統となっていると感じています。外大で教職課程を履修できたこと・尊敬する先生方や先輩方、共に支えあってきた同期・一生懸命頑張る後輩たちに出会えたことは、私の誇りです。外大教職に関わる全ての人たちのご活躍を願って、結びの言葉とさせていただきます。

「光陰矢の如し」

富山市立豊田小学校 教諭 赤川 尚(外国語学部平成24年3月卒業)

教員採用試験に向けて、仲間と切磋琢磨し合いながら過ごした日々から、2年が経ちました。現在、2年生の担任として、30人の子供たちと楽しい毎日を送っています。「おはようございます」から「さようなら」まで、あつという間に1日は過ぎていきます。教員になって、1週間が過ぎ、1か月が過ぎ、そして、1年が過ぎました。

大学での4年間は、「絶対に教師になる」という強い思いをもちながら、がむしゃらに突き進みました。思い返せば中身の濃い4年間でした。そんな大学生活を送るために、3つのことを心がけました。

1つ目は、たくさんの人と出会うことです。小学生まなびングキャンパス、中学生サマーセミナーなどのイベントに参加したり、近隣の小学校での学びングサポーターをしたりするなど、ボランティア活動でいろいろな人に出会いました。また、飲食店のアルバイトでも、老若男女問わずたくさんの人と出会いました。

2つ目は、何事にも全力で取り組むことです。大学の講義では、90分何かを得ようと前列に座り、一生懸命に取り組みました。ボランティア活動では、子供たちにとって何が一番良いのかを考え、練習しました。遊ぶ時には、思う存分はしゃぎました。そして、何もしない時には全力で何もしませんでした。

3つ目は、嫌なことから逃げないことです。嫌なことといえば、間違いなく教員採用試験の筆記試験の問題集を解くことです。なぜかといえば、「分からない」からです。面白くないからです。辛いからです。でも、やらなければいけない……。そんな時に、友達に言われた一言が、私を奮い立たせてくれました。それは、「夢は逃げない、逃げるのはいつも自分だ」という言葉です。その言葉を机の前に貼り、必死になって問題集を解きました。小学生の問題が分からない時は、小学生用の問題集を使用して、基礎が定着するまで、何度も何度も繰り返し学習しました。

上記のことは、教員生活の中で、大いに役立っています。周りの先生方や子供たちだけではなく、保護者との関わりの中でも、相手のことを考えながら接しようとする意識が働いています。また、仕事をメリハリつけて行うことで、自分の心身の健康状態をしっかりと整えることができます。「一人前の教員になる」夢を追いかけて、日々精進しています。

大学生活で、出会った仲間とは今でも連絡を取り合い、定期的集まっています。互いの日々の苦勞を勞いながら、大学生活を懐かしんでいます。「自分も頑張らなければ」と鼓舞し合える大切な仲間です。各地で一生懸命働いている仲間を心の支えとして、一瞬一瞬を大切にしながら、これからの教員人生を歩んでいきたいと思ひます。

「逃げずに最後までがんばって！」

千葉県市立中学校 教諭 市川 潤弥(外国語学部平成 24 年 3 月卒業)

私が皆さんと同じ大学生だった頃も羅針盤を大切に読ませて頂いていました。そしてその発刊がついに 100 号に達すると伺ったときは、当時の懐かしさとともに、今も変わらず先生方と一緒に夢に向かってる人があるのだと思ひ、嬉しくなりました。ところで、私は昨年 3 月に関西外大を卒業し、現在は千葉県の公立中学校で教員をしています。今回は、少しでも皆さんの力になるべく 3 つのアドバイスを送ります。

1 つ目は、良き仲間(ライバル)を見つけて猛烈に勉強することです。当時を振り返ると、私は常に友人と一緒にいたのではないかと思ひます。それは単に押し潰されそうな重圧を紛らわすためだったのかもしれない。しかし、それだけではありませんでした。情報交換をする中で、「あいつはもっと頑張っている。だから自分ももっと勉強しよう。」と頑張る糧にしていました。ですから、皆さんにも早く良い仲間を見つけてもらいたいです。

2 つ目は、自分がなぜ教師になりたいのか、そしてなつてから何をしたいのかという具体的なイメージを持つことです。これから先、恐らくたくさん悩み、辛く落ち込んだりするのではと思ひます。そんなときにふと、思ひ出してみてください。きっと「まだまだ頑張れる！」と思えるはずですよ。

3 つ目は、海外に行くことです。学校には色々な生徒がいます。物知りの生徒や勉強が得意でない生徒、英語が大好きな生徒や大嫌いな生徒などです。他にも色々ありますが、海外に行った話やそこで撮った写真だけでは夢中になり目を輝かせていました。皆さんにもぜひ、この感動を味わって頂き、多くのことを生徒たちに伝えてもらいたいです。

最後に、教職教育センターのすべての先生方に感謝をしています。結果が出るまでは本当に辛かったですが、逃げずに過ごしたあの日々が私の財産となっています。これから試験を迎える皆さんにも、ぜひ最後まで頑張つてほしいと思ひます。応援しています。

「スーパーハッピーな教員 1 年生です！」

三重県立桑名西高等学校 教諭 鈴木 佳奈恵(国際言語学部平成 26 年 3 月卒業)

「教員 1 年生」の私から、この文章を読んでくださっている皆さんにいちばん伝えたいのは、「先生つて最高に素敵な仕事！」もちろん良い学校に恵まれたから、というのも理由の一つです。しかしそれ以上に学校で生徒たちと共に過ごす日々がとても楽しく、彼らの小さな成長を見られる毎日に、何より幸せを感じています。

私の教員 1 年生を支えてくれているのは、関西外大で出会った大切な仲間たちです。着任前日の 3 月 31 日。誰からともなく「明日からお互いがんばろうね！みんなでがんばろうね！」と言葉をかけ

合ったことを、昨日のこのようにはっきり覚えています。良い教材を見つけたとき、授業で失敗して悩んでいるとき。声をかけ合うのはいつも、関西外大で共に夢を掴んだ仲間たちです。

関西外大教職生の先輩として私は皆さんに、教職を通して出会った仲間をずっと大切にできる人であってほしいと思っています。私は「仲間の成功を喜べる人には、その気持ちがきっと自身の成功という形で自分に返ってくる」と信じています。校種や自治体が違っても、ゴールはみんな同じです。皆さんには目の前にいる仲間、近くで支えてくださる先生方、そして関西外大で学び日本中で活躍している先輩方がいます。その皆が「がんばれ」ではなく、「一緒にがんばろう」という気持ちでいることを忘れないでください。まだまだ新米の私ですが、皆さんが安心して頼れるような先輩に成長できるようにがんばります。一緒にお仕事ができる日を、楽しみにしています。

「教師になる準備はできましたか？」

洛南高等学校附属中学校英語科 教諭 遠藤 宗(国際言語学部平成 26 年 3 月卒業)

在学生の皆さん、はじめまして。数少ない後輩へ、お久しぶりです。お世話になった先生方、ご無沙汰しております。同志の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

4月30日、学校行事の一環で高野山へ行きました。教員として初の大仕事。生徒にとって初めてのお泊まり。私が一番に思ったこと「夜中、絶対に騒ぐから寝られへん……」

しかし、**担任の教育が非常に素晴らしい**ので、就寝時間には静かに寝ていました。「今日も一日頑張ったな～」と思っていたとき、一本の電話が入りました。

「西村です。5月17日の合宿来れる？」返事はもちろん「はい！」言ってから手帳を見てみると、定期考査1週間前、当日は夕方まで仕事、翌日は朝から約7時間の講習会。「忙しいので今回は……」と言ってもよかったのですが、なぜ参加を希望したのか。

それは、私が大学3年生の時、この合宿に参加したことで「自分が教師にならないといけない！」という強い使命感が生まれたからです。先輩から学校現場の現状や英語の授業について聞き「こんな環境で子どもを学ばせたらダメだ!」「これ以上、犠牲者(英語嫌いの生徒)を増やしてはいけない!」と生意気ながら思っていました。

このような記念すべき100号を飾るには相応しくない書き手、そして内容で今回お声をかけてくださった岡澤先生に大変ご迷惑をおかけしました。

この文章を読み、少しでも私に興味を持ってくださった方がいらっしゃればこちらのアドレス(endou@rakunan-h.ed.jp)までご連絡ください。お待ちしております。

編集後記

「羅針盤」100号発行の回想—「せんせい」はいい仕事です—

「先生になれてよかった」この喜び、この感激の声は何事にも優る。教職を旨としてその夢や目標を叶えた時の一瞬が凝縮された「羅針盤」を編集して「幸せ」を頂いている。教員採用試験の「合格」は最終のゴールではない。でも、人生の大きな「一里塚」といえる。多数の方々の合格体験記に、「これからがスタートです」と書き添えてある。合格を目標に一生懸命に勉学に励んできた苦労や苦悩の結果を垣間見ることができる。これが「羅針盤」の情報誌としての醍醐味であり、価値がある。学生たちが辛苦を綴ってきた記事の魂に触れ、次々と世代を超え受け継がれてきた所以でもある。

振り返れば、創刊が平成16年12月13日。その第1号の表紙をデザインした「羅針盤」第1期生の廣内香苗さんの記事をこの場を借りて紹介しておきます。

— 教員を旨としておられる皆さんへ —

最近、何人かの教職科目履修者の学生さんから教員採用試験や留学について、何度か質問を受ける機会がありました。質問の主な内容は、将来教員になりたいけれど具体的にどうしたらいいかわからないというものでした。今回は、同じ大学の教職履修者の先輩として、皆さんに私なりの how to be a teacher を少しお話させていただきたいと思います。

私が教員を真剣に旨としたのは大学3回生の冬でした。…中略…たまたま2回生になり、受けたTOEFLの点数が急激に下がっていたことにショックを受け、それから授業を大事にするようになり、予習や復習もしっかりするようになりました。すると、TOEFLの点数も次第に上がり始め、今まで心のどこかで諦めていた留学への思いがふつふつと再燃しました。3回生の夏から約1年間、アメリカのルイビル大学へ交換留学に生かしてもらうことになりました。…後略…

この後A4版7ページにわたって合格までの道のりを詳しく披露されています。特別な勉強をするよりも毎回の授業大切にしたこと、外大は留学制度が整っているということ、外国人留学生と触れ合うチャンスが多く、大学の提供してくれるサービスを最大限に活かしたこと、留学の苦労体験、留学は advantage に捉えていたこと、採用試験の対策、学校現場を知る「まなびングサポーター」のボランティアの効用等アグレッシブな内容が続く。

“夢を現実に！・・・高いハードル、それを乗り越えるあなたの情熱！”を謳った「羅針盤」のどの投稿記事も思い出と重みが詰まっている。単なる合格体験記ではない。受験と合格だけの薄いものではなく“人生航路”そのものだとは私は考えている。

末筆で恐縮ですが、理事長、学長の平素からの温かいご支援に感謝申し上げますとともに、「羅針盤」及び教職に関わって頂いたすべての方々、そして、関西外大の教職の実績を今日まで伸ばしてきた主人公である卒業生や学生たちに心より謝辞を申し述べます。

文責：英語キャリア学部 教授(教育実習委員) 岡澤 潤次